

概況総括：『全般的に好調を維持しているが、人手不足が深刻化している。』

【調査概要】

1. 今期(平成 29 年 4-6 月期)の業況調査 DI12 項目では、プラス DI は、「売上高」22.9(前回 14.2)、「受注単価販売価格」2.0(前回▲2.5)、「収益状況」8.3(前回 7.1)、「資金繰り」9.3(前回 1.8)、「操業率」19.5(前回 19.2)、「生産設備」15.3(前回 18.9)、「来期受注」19.7(前回 13.5)、「来期採算」4.6(前回▲0.7)、「来期資金繰り」2.6(前回 0.0) の 9 項目(前回 7 項目)となった。
2. 現在の経営状況を示す「売上高」から「生産設備」までの 9 項目では、
 - (1) 景況感を端的に表す「売上高」は 22.9(前回 14.2)と引き続き増加している。
「受注単価販売価格」2.0(前回▲2.5)が H18 年 10-12 月期以来のプラスに転じた。また、「収益状況」8.3(前回 7.1)、「資金繰り」9.3(前回 1.8)も改善している。
一方で、「原材料単価」▲47.0(前回▲47.0)は、引き続き上昇している。
 - (2) 現場の繁忙さを表す指標では、「操業率」19.5(前回 19.2)、「生産設備」15.3(前回 18.9)の 2 項目は引き続きプラスで推移しており、残業等での対応が増えている。今後、人員の確保が急務であり、ロボット等生産設備の自動化・省力化対策も求められている。
3. 来期については、「来期受注」19.7(前回 13.5)、「来期採算」4.6(前回▲0.7)、「来期資金繰り」2.6(前回 0.0)と 3 項目ともに改善している。
4. 「企業経営上の悩み」については、前回一番の悩みであった「人材不足」が 46.0(前回 42.1)と更にポイントを上げ、人手不足がより深刻化している。
5. 今回の調査では、前期よりさらに改善し全般的に好調を維持している。特に建設機械関連や車両・自動車部品関連、産業機械関連は仕事量が増えている。
しかしながら、人手不足がさらに深刻化しており、現人員の育成やロボット等の自動化・省力化設備の導入などが喫緊の課題となっている。
また、来期についても景気の持続が期待されてはいるが、米国新政権の経済政策や中国等の経済動向に留意する必要がある。

